

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月17日

【評価実施概要】

事業所番号	1298800028
法人名	社会福祉法人おかげさま
事業所名	グループホーム 夢ほーむ
所在地	〒295-0012 千葉県南房総市千倉町南朝夷1661 (電話) 0470-44-1883

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働者福祉センター5階
訪問調査日	平成20年11月17日
評価確定日	平成21年2月9日

【情報提供票より】(平成20年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	15 人
利用定員数計	9 人
常勤 7 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	11.6 人

(2) 建物概要

建物構造	平屋造り
	1階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000円	その他	食費36,000円, 水道光熱費25,000円, おむつ代・切手・特別な買い物等実費	
保証金の有無(入居一時金含む)	200,000円	有りの場合償却の有無	退居時に居室補修費用を除いて返却。銀行預金通帳を別にして保管(本部通帳)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	150 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(10月28日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	72 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松永医院 安房地域医療センター 山本歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム夢ほーむは門から玄関の間に広場があり、認知症対応型通所介護施設が併設されている。入居者は近隣に住んでいた人が多く、地域との繋がりも強い。近くには小学校や商店街があり、自治会にも開設当初より加入し、積極的に地域交流している。またホームは入居者との家庭的雰囲気をも大切にしており、職員が協力してケアを続けた結果、入居者は入所時よりも日常生活能力の向上が見られようになった。管理者、職員がともに介護サービスの改善、向上を目指しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員が理念を理解し、それに沿った支援ができるよう、それぞれ取り組んでいる姿勢が見られる。運営推進会議は4ヶ月に1回だったが3ヶ月に1回となった。職員の教育にも熱意を持って取り組んでいる。昨年の改善課題への意識は強く、取り組む努力がされているが、職員の交代があり、必ずしも解決には至っていない部分もある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者と職員は前向きに課題に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は4カ月に1回を3ヶ月に1回行うようになった。日常の問題点を報告し、参加者のアドバイスを地域からの視点として支援に活かす取り組みをしている。消防署からのアドバイスを活かし、避難経路も整備した。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会で意見を聴取したり、アンケート調査をする機会を作っている。また苦情相談窓口で家族の意見や苦情を常に受け入れている。そこでの意見は職員全体で話し合い、情報を共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、ごみ拾いや海岸清掃、ホームの広場を開放して行う祭りなどへの協力を継続している。近くの幼稚園や小学校との交流も積極的に行っている。散歩や買い物、地域との係わりから、近隣住民の理解も深まってきている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設の指針として、「おかげさま」の理念を解かりやすく表現している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は常に職員間で話し合い、ミーティングの際に読み上げたりして共有を図っている。チームでも個々でも、職員は理念に基づいたケアを実践している。またホーム玄関を入るとすぐに見えるようコルクボードに掲示するとともに、パンフレットにも明記されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、海岸清掃や地域の祭りなどの行事に参加している。また幼稚園・小学校との交流を大切にしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は外部評価で指摘された改善課題について、できることから取り組んでいる。職員の入替わりなどもあったので、取り組めていないところもあるが、認識はしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1度、運営推進会議を開催し、そこでの意見を職員間で検討し、サービスに活かせるよう取り組んでいる。	○	運営推進会議は2ヶ月に1度の開催が推奨されているので、さらに回数が増やしていくことが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には地区の保健推進委員、民生委員、地域包括支援センターの職員や地域住民、利用者家族らが参加している。	○	夢ほーむは、地域の現状や今後の予測される状況を鑑みると、福祉資源として重要な存在となっている。介護教室等の企画も含め、情報・意見交換など、市町村との連携の拡大も期待される。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭出納状況や健康状態、ホーム便りなどを毎月家族に送っている。また、家族の訪問を促す目的で、利用料金等を現金で徴収している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会は併設のデイサービスと合同で行っている。認知症による徘徊の問題を皆で話し合い、地域や警察に働きかけて協力を得ることができるようになった例もある。尚、4ヶ月に1度行われている家族会で出た意見や要望は、ホームの全体会議で話し合っている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の入替わりによる環境変化で、入居者にダメージを与えないよう、全職員が協力しあっている。離職を避けるための取り組みとして、休暇制度を作るなどの話し合いがもたれている。	○	職員の離職による影響については認識していたが、特に対策方法までは策定していなかった。新人が増えたことによる現任職員の負担軽減策も検討が必要と思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が資格取得を希望する場合は、ホームで支援を行う。研修や勉強会も実施している。しかしながら職員の経験に応じた年間育成計画を作るまでには至っていない。	○	新人職員の育成プログラムや、各段階に応じた現任職員の研修プログラムを作り、計画的に研修を行うと効率が良いと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉県グループホーム連絡会や「安房しあわせネットワーク」に加入し、勉強会など積極的に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>体験入所は空室がないとできないが、見学は随時受け入れている。入居待機者の半数は併設のデイサービスを利用して馴染みがある。また家庭での生活や名前の呼び方などをホームに入ってから継続するようにし、早く馴染めるよう配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は入居者や家族の思いに配慮した関わりを心掛けている。ホームでは家事などを一緒に行い、入居者の手伝いに対しては必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時に本人及び家族から状態や希望を詳しく聞き、フェイスシートやアセスメントシートとしてまとめている。その後、日々の関わりの中で本人の思いや気付き及び家族の意向を得て、その都度、個人記録用紙や業務日誌に記録している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・家族の最新情報を記入した業務日誌等の内容は、早番、日勤、遅番、夜勤の各職員間で順次引き継ぎ、情報共有している。計画作成担当者は常に職員と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画の課題・目標(長期、短期)・「何をどうするか(具体的計画)」について、3ヶ月ごとに評価している。また、入居者の状態に変化が生じた時もその都度評価している。計画は居室担当の職員が原案を作り、計画作成担当者と話し合っ作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの入居待機者は、併設する認知症対応型デイサービスを利用しながら空きを待っている。デイサービスが休みの日には、デイ職員がボランティアとしてグループホームの外出を応援している。デイで行われるボランティアの演奏は、グループホーム入居者も聴くことができる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主としてホームが契約している医療機関(訪問診療、総合病院、歯科、訪問看護)を利用している。また、本人、家族の希望により、別の医療機関に受診している入居者もいる。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「認知症対応型共同生活介護が行う看取りに関する同意書」、「認知症対応型共同生活介護事業に於ける看取りに関する指針」があるが、看取りの実績はなく、看取り業務に対する不安が感じられる。		看取りの経験を持つ他ホームの話しを聞くなどの勉強も有意義だと思っているとのことなので、いざというときに向けての備えが求められる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いについては職員間でよく話し合っている。個人情報に係わる書類は鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は手伝いをしている人、新聞を読んでいる人、人形と遊んでいる人、日向ぼっこしている人など思い思いに過ごしている。職員は意思の伝達が困難な人の希望を掴むことや、介助を要する人の外出支援に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は日頃から入居者に希望を聞いて立てている。また、入居者は調理・配膳・片付けを手伝っている。畑で収穫した野菜を使った料理を、家族的雰囲気の中で楽しんでいる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	風呂は毎日入ることができる。身体介助を必要としない入居者が、自由に入浴できる時間帯も設けている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者はそれぞれ、調理・洗濯物たたみ・野菜作り・花の水やり・外出・居室間の訪問などの楽しみごとを持ち、職員が支援している。ボランティアによる踊りや演奏では、一緒に踊ったり拍子をとったりしている。思いを伝えることができない人も、生活を楽しめるよう職員が気を配っている。入居者の手伝いに対しては必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	好天なら午後は毎日散歩に行く。近くの小学校、寺、買物を兼ねて街などへ出かける。車椅子利用者の散歩は一人ずつ順番に支援している。また応援してくれるボランティアがいる時は、入居者全員で弁当を持って神社や公園へ行ったり、ドライブして外食に出かけるなどもしている。全員参加の初詣も計画している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	自立歩行のできる入居者は暇だと外出を希望するので、用事をお願いして気を紛らわせている。スタッフが多く、目が届きやすい時間帯だけでも鍵を掛けないようにすることが案としてある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。避難場所、避難経路、緊急連絡体制が整備されている。消防署のアドバイスにより避難経路の段差を少なくし避難しやすくなるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の希望を聞き日勤当番者が決めるが、ヘルシーな物や、入居者の状態に応じた食事を考えている。水分補給は、3食時や定時(10時、15時)のほか随時見計らっている。食事や水分の摂取量は、個人別に「身体記録」、「健康管理表」に記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差しがいっぱい入る明るい空間が多い。室温計、湿度計が共用スペースの数箇所に設置され24、60%の快適な環境にあった。テーブルの椅子には入居者の状態に応じキャスター付きの椅子も置かれている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は禁煙以外に制約はない。入居者は使い慣れた家具や寝具で居心地よく過ごせるようにしている。居室担当の職員がいて室内整理を支援している。		